

第2回秋田市総合計画・地方創生懇話会
子育て・健康長寿分科会 会議録

日 時 平成27年9月1日（火）午後3時10分～午後4時6分

会 場 秋田キャッスルホテル

出席者

子育て・健康長寿分科会委員（6名中4名出席）

山崎純委員、菅生紀光委員、田口清洋委員、佐々木暁子委員

市側

企画調整課参事

	議事(1) 意見交換
分科会長代理	<p>本日、野口分科会長が急遽欠席ということで、代理をさせていただきますので、よろしく願います。</p> <p>資料2の戦略4と戦略5が本分科会に関係する部分である。初めに、このことについて意見交換をしたい。その後、時間に余裕があれば、その前の戦略1・2・3の部分や人口ビジョン、将来都市像別の政策等についての意見交換をしたい。</p> <p>分科会の方で一つの意見を結論としてまとめるものではないので、自由に忌憚のない意見をお願いします。</p> <p>では、意見交換に入る前に、資料2の戦略4・5について、主なポイントを事務局より説明をよろしく願います。</p>
事務局	<p>（成長戦略（資料2）のポイント等を説明）</p> <p>なお、委員から要望があり、参考に資料を準備した。平成23年から本年度27年度までの5年間で取り組んできた計画で、この分科会で取り上げる高齢化、少子化については、戦略5「エイジフレンドリーシティの実現」、戦略6「次世代の育成支援」として、これまでも視点はぶらさずに取り組んできた。今回、示した次期計画の原案のように、どのようなところに力点を置いていくか、どういうキーワードで、どういう施策を見せて具体化するべきなのかというような視点からご覧いただきたい。</p>

136 ページから 139 ページまでが、この分科会に関連する秋田市の施策であり、参考にしながら議論いただきたい。

分科会長代理

それでは、順番に戦略 4 の方から意見交換を始める。

資料 2 の 4 ページ、また、現計画抜粋版の 138 ページになるが、日頃感じていることや見聞きしていること、この重点プログラムに書かれていることを実現するために必要なこと、今の施策で工夫すべきことという視点で、活発にご議論いただきたい。

委員

基本構想原案で戦略 1～5 までであるが、この順番というのはどうやってつけられたものか。それなりのウエイトや、市の考え方があってつけられたものなのか。また、この分科会の担当分野である「子どもを生み育てやすい社会づくり」と「健康長寿」が戦略 4 と 5 になった理由は何かあるのか。

事務局

前回、現計画を作るときも、この 6 つの戦略の順番についてどのようにすべきか議論になり、「秋田市を元気にしよう」「元気な秋田市を次の世代に伝えよう」という二つのキーワードで話し合った。戦略 1 から 4 は、今の秋田市を元気にするための戦略、戦略 5 と 6 は次の世代につなぐ元気な秋田市の基盤をつくる戦略として整理したものである。

昨年度の市民意識調査で、「子育て環境の整備」は非常に市民のニーズが高かったということと、「エイジフレンドリー」はこれまでの取り組みが比較的評価されているということがわかったため、今の 6 つの戦略を組み替えて、今回の順番にした。

そういう意味では、「今の秋田市に対する施策」が 3 つ、「将来に伝える基盤づくりで重点を置いているもの」が 2 つと捉えていただくと、ご理解いただけたと思う。ニーズを考えて、人口減少社会ということで、若い世代に力を入れていくため、順番を入れ替えた意図がある。

委員

子育てというのは考え方によっては、今の秋田を元気にするものでもある。子どもを生み育てやすい社会づくりは、もっと前にきてもいいのではないかという議論は庁内ではなかったものか。

事務局

市民ニーズの高さで戦略の順番を示すというやり方も、ご指摘のとおりあると思う。

委員

そのニーズの高さと、市民に対して伝わりやすい、わかりやすい点からいうと、戦略 2 にもってきてもいいのではないか。

事務局	子育て、それから高齢化への対応といったところの市の戦略としての重みを、どう捉えるかというご意見でよいか。
委員	そのとおりである。
分科会長代理	この戦略の順番が変わる可能性はあるのか。
事務局	可能性はある。いろいろな意見があり、この場では即答できかねるが、確かにご指摘のと通りの考え方はあると捉えている。
分科会長代理	優先順位はつけづらいが、戦略の最初にくると、秋田市は子育てを一番頑張るというアピールにもつながっていくと思う。 このことについて意見はあるか。
委員	別の観点で見れば、優先順位が変わることがあると思うので、まずは一番わかりやすい整理がされていけばよいのではないか。総合計画を熟読する市民は少ないと思うが、逆に、毎年読んでいる市民にとっては、全然違う切り口でやると、市の重点方針が大きく変わったという誤解を招くのではないか。市民に実感できる中身が重要だと思う。
分科会長代理	計画をただ作って終わりではなくて、どうやって実行して、それを検証して、PDCAサイクルに乗せていくかを丁寧に取り組んで欲しい。
委員	先ほど事務局の説明にあったとおり、現在の秋田市を元気にするというくくりと将来を考えた基盤づくりというくくりとするのであれば、この分け方も納得できるが、単純に、観光よりも子育て関係をもっと前にもってきてもいいのではないか。
委員	戦略5「いきいきと暮らせる健康長寿社会づくり」は、戦略4「子どもを生き育てやすい社会づくり」の前に来なくても良いのか。
委員	それよりも子育てだと思う。地域の子どもの元気だと高齢者も元気をもらえる。高齢者より子どもの方に、ウエイトをあげるのが当然であるという気持ちだ。
分科会長代理	同感である。そういうところが支えあいの具体的などころにつ

ながっていくと思う。

委員 私は子どもを保育園に預けて働いており、大変なこともあるが、逆に専業主婦で、子どもと二人きりの方がつらいのではと思う部分もある。

国としては働きながら育てよという方針だと思うが、秋田市として、どちらの支援を重点化するつもりなのかをはっきりさせた方が良い。

分科会長代理 子ども・子育て支援新制度が始まっていて、その中で在宅支援も重要だと国も認めている。市は在宅支援を拡大していくとか、そういった方向性はあるのか。

事務局 いわゆる専業主婦としての子育て環境と、仕事との両立のどちらに力点を置くかというのは非常に貴重な意見である。これから子どもを生みたい、育てたいと思わせるとすれば、市単独ではなく県がやった部分に上乘せするとか、これまで薄かった分野の支援を厚くするとか、そういう視点を今の意見でもって整理したい。

分科会長代理 働きながら子育てしている世帯に対しても、そうでない世帯に対しても、どういう家庭環境においても、まず子どもたちが幸せに育ち、親が子育てを楽しんだり、不安感をなくしたりというのが秋田市として重要だと思う。これまでの戦略にも、働きながら子育てしている世帯に対しては、預かり保育の助成があったように思うがどうか。

事務局 ファミリーサポートセンターの利用助成や子育てサービス利用者支援などの事業を行っている。

分科会長代理 それらをこれからどのように力を入れていくか、市の姿勢として見えると良い。ヒアリング等もしながら、どういうところが必要なのか、当事者の視点を入れていただきたい。

ほかに何か意見はあるか。

委員 戦略4の背景のねらいで、少子化の背景には、「未婚化・晩婚化」がよく言われているが、晩産化の文言をあえて除いた理由はあるのか。

事務局 その意図は不明であるが、その表現はよく見られる。

委員	「未婚化・晩婚化・晩産化」は、よく三つが並んでいるものなので、あえて抜いた理由が明確にあればそれでよいが、そこはもう少し検討してみてもどうか。
事務局	検討させていただく。
委員	前のアンケートでも指摘したが、「都市の持続的な発展を妨げる大きな課題に直面」というのは、言い過ぎのような気もする。もうちょっと和らげた表現にして、大上段に構えなくてもいいのではないか。
事務局	今のご指摘について皆さんの受け止め方はどうか。
委員	現状においては、当局にとってこのぐらいの強い気持ちを持って取り組んでもらう方がいいと思う。
委員	人口が少ないから来いという場所に、人は移住しない。楽しそうだから来るし、興味を持つ。 結婚生活が楽しいという人がたくさんいれば、マイナスよりプラスのイメージを持つと思う。子育ても同じで、2人目、3人目を生みたくなると思うので、楽しいことにフォーカスして欲しい。 秋田市は、すごく子育てしやすいまちだと思う。その理由の1つに、車社会というのがある。子どもと出かけるのに車がとても便利で、いろんなところに1時間で行ける。 もう1つの理由が、混雑し過ぎていないところだと思う。どこに行っても行列の東京、仙台よりも、並ばずに入れる大森山動物園、GAOなど、メリットにもっとフォーカスしてはどうか。
分科会長代理	子育てしている人たちは、子育ては楽しいとか、子育てしやすいとか言うが、それらの情報をこれから子どもを生もうとしている人たちに、どういうふうに伝えていくかというところは大きな課題である。 晩産化の話だが、少子化、晩産化、長寿化、これが複雑に入り混じって、子育てしながら介護もする「ダブルケア」の時代がくる。晩産化にはそういう懸念があり、子育てと介護で苦しむ人たちが必ず出てくる。そういった部分も、予防を打っていただきたい。
委員	戦略4「子どもを生み育てやすい社会づくり」のタイトルに絡み、重点プログラムの中に生みやすい、生むというところにつな

がるプログラムをキーワードに入れ込んではどうか。

事務局 今のご指摘はそのとおりである。生みやすい、生む人の希望をかなえる取り組みを入れる必要があると考える。

委員 「子どもを生みやすい環境づくり」と、「子どもを育てやすい環境づくり」の二つに分ければ、より強調されるのでは。

事務局 検討させていただく。

委員 助成対象にならないが、初期の不妊治療を受けている人がたくさんいる。薬を1錠飲むだけの治療でも、毎月1万円ぐらいの負担になる。行く手間もかかる。仕事も休まなければならない。初期段階の治療にも予算をつけてもらえれば、使う人はたくさんいるのではないか。

分科会長代理 これについては、確認して、検証が必要だと思う。不妊治療の前段階で、20代の早いうちに第1子をもうけることが少子化対策につながっていく。ある程度、生める時期が決まっているというのを、啓発を含めて市民が理解することも必要である。

事務局 「生む」というキーワードの中には、個々人の事情があり、思いがあるので、今日のご意見を受けて、担当課と相談させていただきたい。

委員 「生む」ということからすると、「生む」前に出会いが必要。出会いについてはどうか。

分科会長代理 結婚支援センターなどが頑張っているようだが、秋田市の婚姻率が過去より上がってきているのであれば、もしかしたら出会いの数が多くなったとか、何かしら工夫がされているのではないか。

委員 アンケートでは確か、出会いは少ないという結果がでていたと思う。

事務局 そのとおりである。

分科会長代理 結婚したくてもできないというような背景には、非正規雇用であったり、結婚に対しての意識が変わってきて結婚しない生き方も認められているというところもあり、非常に個人の考えが大きい

いところである。

それぞれの生き方を認めつつも、結婚しない人が結婚できるような秋田市になるためには、工夫が必要になってくる。

事務局 補足すると、重点プログラムのⅢに「若い世代の希望の実現」とあるが、これに該当する現段階の取組としては、県の結婚支援センターの運営補助として、助成しているだけである。ただ、いずれ出会いの場を創出するような事業をこれから考えていかなければならない。

委員 今はまだ行っていないということか。

事務局 市が直接行っている出会いの事業はない。

委員 ほかの市町村では、行っているのではないか。

事務局 行っている。

委員 なぜ秋田市ではやってないのか。

事務局 検討中である。

委員 出会いについてだが、県の結婚支援センターのような組織もいいが、昔の仲人のような方が、出会いの場をつくって、工夫していくというのもいい。

分科会長代理 話が尽きないと思うが、戦略4についてこれで終わりにさせていただきたい。

それでは、次の戦略5の方に移りたいと思う。

重点プログラムが5つあり、こちらについて日頃感じていることについて、自由にご意見いただければと思う。

委員 背景、ねらいは、まさにこのとおり。いかにしてこの姿に近づけていくかということだと思う。

高齢者にとって、心豊かにいきいきと幸せに暮らすためには、健康でボケないことが大切である。うちの中に閉じこもりがちな高齢者は、認知症予備軍、介護予備軍に近づいてきており、それを少しでも緩和させるような施策が必要である。

いろいろな企画をしても、外出するのが嫌だという人は、なかなか出てこない。難しいけれども、そういう手段を考えていくと、

医療費や介護費などが、徐々にではあるけれども、確実に削減できるのではないか。是非そういう施策を重点プログラムなどに組み込んでいただきたい。

委員 外に出るということが、健康長寿につながるというのはそのとおりで、そのための手段として、秋田市でやっている 100 円バスは、非常に好評である。重点プログラムに高齢者の移動手段の確保とあるが、まさにこれに当てはまるだろう。

こういったところを、さらに広げて、浸透させていって欲しい。

事務局 対象年齢の見直しも今、段階的にやっている。70歳が68歳になり、今後もしゃれば65歳ぐらいにして、対象になる人を広げようと考えている。

委員 65歳より対象年齢を下げる必要はない。

事務局 65歳が限度と考える。

委員 あまり下げ過ぎるのも、わがまま過ぎると思う。

委員 後期高齢者の定義は75歳以上である。

委員 対象年齢を下げたとしても65歳でよいと考える。

事務局 自分で歩く、バスに乗る、歩く、軽く体を動かすという環境に慣れていただいて、医療費や介護費の削減につながる一助になればという、そういう思いはある。

委員 勝平市民グラウンドに芝公園をつくり、そこでグランドゴルフを楽しめるよう、市が工事しているところである。

そういう場を、もっと身近なところで、あまりお金をかけないでつくる。そうすれば、高齢者がいっぱい来る。

分科会長代理 例えば、小学校の空き教室を高齢者に開放すると、高齢者だけではなく、そこに学校、地域、児童が絡むので、支え合いというところにつながっていくかもしれない。戦略として、今あるものを活用して効果もねらっていけばよいのではないか。

委員 子どもと一緒に市民農園を利用したいと思ったが、個人用は予約済で、就農者向けの広い農園は空いているようだった。空いて

いるなら、個人向けに貸してくれればよいのにと考えたことがある。

委員 市民農園というのは、現状、ニーズに足りていないのか。

事務局 おそらく足りない状況に近い。ただし、数年前に比べると、ニーズはある程度落ち着いてきているので、これから新たにつくる予定は、現時点ではない。農林部では、おおよそ予定した農園はつくったということであるが、地区によっては抽選でないと使えないところもあるようだ。

委員 高齢者も土に触れることで、元気を取り戻すということはあると思う。

分科会長代理 セラピーにある。動物とか土とか。

委員 市民農園で野菜をつくりたい方が十分にできるような、そういう土地の提供というのは必要だと思う。耕作放棄地があるはずだ。

委員 子どもと高齢者、町内など、グループで借りるようなこともできればいい。

分科会長代理 町内単位でできればいい。町内の絆、地域の絆が弱いと言われているが、みんなが交わる場所がないというのがある。

委員 秋田市の都市部には、なかなか近くに利用できる市民農園はないが、郊外にも設ければ可能だと思う。

分科会長代理 一つひとつのばらばらな施策ではなく、そこにいろいろ絡めていくのが必要である。

今ある課題を解決するには、様々な事柄をミックスさせていく作業や施策が非常に重要だと思う。

委員 戦略5で、重点プログラムにはないが、いわゆる土に触れるというのも健康長寿につながっていくので、それを入れて欲しい。

また、生涯スポーツなどのニュアンスも盛り込んだ方がいいのではないか。

事務局 おそらくプログラムⅠの健康づくりや生きがいつくりの中に置く可能性はあるだろうが、キーワードとして前面に出ていないと、

	そういうご指摘でよいか。
委員	そのとおりである。
分科会長代理	健康には、体の健康も、心の健康もある。高齢者の心の健康に対するケアの施策はあるのか。
事務局	例えば、傾聴ボランティア事業というのがある。一人暮らしだと話し相手がいないので、そういう施策は数年前からやっている。心に関するケアは、市の方でも取り組みを始めていて、今後、厚くしていく可能性はある。
分科会長代理	その情報を当事者の人たちに届けなければならない。そういう窓口がありますよ、市で準備しました、だけではなくて、それを市民がすぐ手に取りやすくする工夫が必要である。
事務局	戦略4で指摘があったが、秋田市が子育てしやすいという評価を受けているのは非常にありがたいが、みんながそう実感しているかというところと一部であって、情報発信が多分うまくないと感じている。
委員	市民センターに遊具のある子育て交流広場があるが、いい施設なのにガラガラで、貸し切りのときがいっぱいある。もったいない。
事務局	地域で子育てしやすい環境というところが、移住・定住のPRポイントになるだろうと考えている。 そういう点では、高齢化も同じで、秋田市なりのコミュニティのよさ、地域で子育てできる、見守りができる、お年寄りが出られる場所があるというところをPRできれば良いと感じた。
委員	それと関連して、戦略5で、非常に難しいが、出不精な高齢者をなんとか外出させる方法を実現できれば、かなり変わるはずである。
分科会長代理	結局コミュニティの話につながっていくと思う。地域の関係性が密だといいが。
委員	それは都市部も農村部も同じなのか。

委員	都市部の話である。田舎のほうだったら、そういう心配はない。農村部は農作業等で隣近所に非常に濃密な付き合いがある。
分科会長代理	ただ、人それぞれではあるが、田舎ならではの、いつも見られているような窮屈感があるという人もいる。 これまでの話が一つのきっかけとして、その施策が解決につながっていけばいいと思う。そういうときに市だけで何でもやろうとせずに、民間と強力な協働体制をとり、民間を活用していくことが地域力をつけるということにひいてはつながっていく。計画の中にそういう戦略を盛り込んでいただければと強く思う。
委員	全く同感である。町内会、市民が一緒に動かないと、絶対駄目だ。行政には一部協力してもらおうが、あとは自分たちでやるという気概が必要である。
事務局	「支え合う地域力の強化」のような、そういうキーワードが戦略の方向性か重点プログラムにあってもいいのかもしれない。
委員	例えば、行政の事業内容を全部知ることは難しいが、支え合いやつながりの部分をコーディネーターが担ってはどうか。 先ほどの話でも出たように、耕作放棄の相談に来たら農園にするとか、何かボランティアをしたい市民や団体がいるとか、そういうことをつなげる、コンシェルジュ役がいればよいのでは。
分科会長代理	今の話は、まさしくソーシャルキャピタルな部分である。今までは秋田市は人を育てるという観点が弱かった。今度はそこを施策に入れてもらえれば、いろんな解決につながっていく。
事務局	経験を生かした場を用意してコーディネート役をお願いするというやり方はあると思う。
委員	医療の面から見たらどうなのか。書かれている内容を見ても、健康長寿と言いながら医療の視点が不足していると感じる。
委員	都市部のお年寄りを外出させるというのは、難問だが、外出させたら、だいぶ違うと思う。
分科会長代理	やはりコミュニティだと思う。
委員	高齢者の長年の経験を、子どもやその親に教えるという機会が

大切だと思う。そういう世代間交流を進めていけば、さっきも言った秋田のよさが、さらに広がると思う。

分科会長代理

以上で分科会を終了する。

以上